

2 0 2 3 年 3 月 3 1 日
山梨県信用農業協同組合連合会

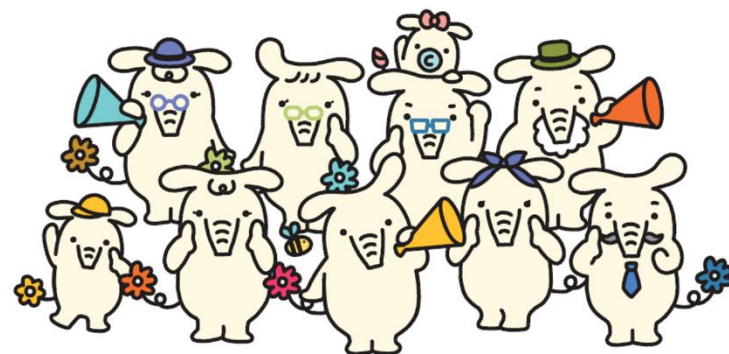
JAバンク山梨における 地域密着型金融の取組状況 (2022年度)



よりぞう

©よりぞう

- J Aバンク山梨（山梨県下 J Aと山梨県信用農業協同組合連合会）では、農業と地域社会に貢献するため、2022～2024年度 J Aバンク山梨中期戦略に基づき地域密着型金融の推進に取り組んでおります。
- 今般、**2022年度**の**取組状況**についてご報告いたします。



- | | |
|---|------------|
| 1. 農山村等地域活性化のための融資をはじめとする支援 | P 3 |
| 2. 担い手の経営のライフステージに応じた支援 | P 11 |
| 3. 経営の将来性を見極める融資手法をはじめ、担い手に適した
資金供給手法の徹底 | P 17 |
| 4. 農山村等地域育成への貢献 | P 19 |

1 農山漁村等地域の活性化のための融資をはじめとする支援

- J Aバンク山梨は、地域における農業者との結び付きを強化し、地域を活性化するため、次の取組みを行っています。

(1) 農業融資商品の適切な提供・開発

(2) 担い手のニーズに応えるための取組み

(3) J A内事業間連携の強化

(4) J Aバンク利用者満足度調査の実施と結果の活用

1 農山漁村等地域の活性化のための融資をはじめとする支援

(1) 農業融資商品の適切な提供・開発

- J Aバンク山梨は、各種プロパー農業資金を提供するとともに、農業近代化資金や日本政策金融公庫資金の取扱いを通じて、農業者の農業経営と生活をサポートしています。
- 2023年3月末時点のJ Aバンク山梨の農業関係資金残高（注1）は**4,535百万円**、日本政策金融公庫等の受託貸付金（注2）残高は**7,506百万円**を取扱っています。

（注）

1 農業関係資金とは、農業者および農業関連団体等に対する貸出金であり、農業生産・農業経営に必要な資金や、農産物の生産・加工・流通に係る事業に必要な資金等が該当します。

2 J Aバンク山梨が農業者の窓口となり、日本政策金融公庫などの貸付金の受託取扱いを行っています。

1 農山漁村等地域の活性化のための融資をはじめとする支援

【資金種別別農業資金残高】

単位 百万円

種 類	2023年 3 月末現在
プロパー 農 業 資 金	3,282
農 業 制 度 資 金	1,253
農 業 近 代 化 資 金	1,168
そ の 他 制 度 資 金	85
合 計	4,535

(注)

1 「プロパー農業資金」とは、ＪＡバンク原資の資金を融資しているもののうち、制度資金以外のものをいいます。

2 「農業制度資金」は、①地方公共団体もしくは日本政策金融公庫の資金をＪＡバンク山梨が転貸で融資するもの、②地方公共団体が利子補給等を行うことでＪＡバンク山梨が低利で融資するものを対象としています。

3 「その他制度資金」には、農業経営改善促進資金(スーパーＳ資金)や農業経営負担軽減支援資金などが該当します。

【営農類型別農業資金残高】

単位 百万円

	2023年 3 月末現在
農 業	4,535
穀 作	190
野 菜 ・ 園 芸	317
果 樹 ・ 樹 園 農 業	1,093
工 芸 作 物	0
養 豚 ・ 肉 牛 ・ 酪 農	215
養 鶏 ・ 鶏 卵	67
養 蚕	0
そ の 他 農 業	2,653
農 業 関 連 団 体 等	0
合 計	4,535

(注)

1 「その他農業」には、複合経営で業種が明確に位置づけられない者および農業サービス業が含まれています。

2 「農業関連団体等」には、ＪＡや全農(経済連)とその子会社等が含まれています。

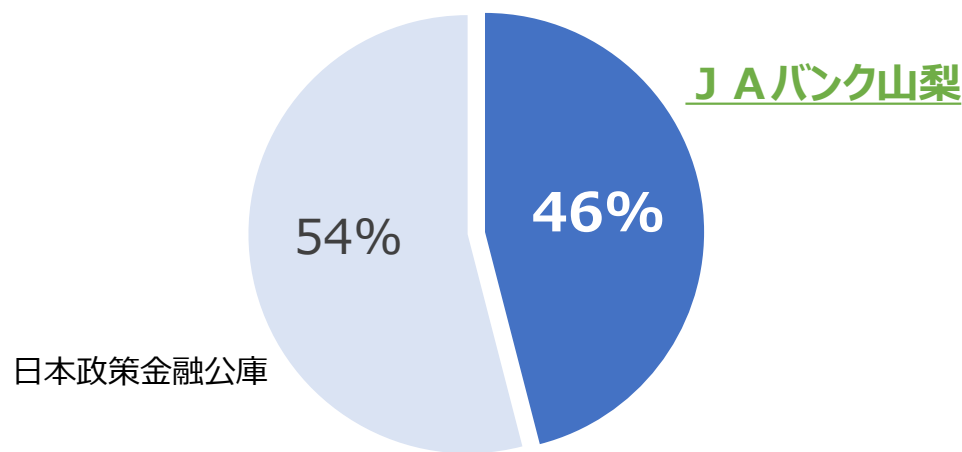
1 農山漁村等地域の活性化のための融資をはじめとする支援

- 主要な農業関係の制度資金である、農業近代化資金や日本政策金融公庫資金（公庫直貸除く）の取扱いにおいてトップシェアとなっています。

【公庫農業資金の取扱いシェア】

（2023年3月末時点）

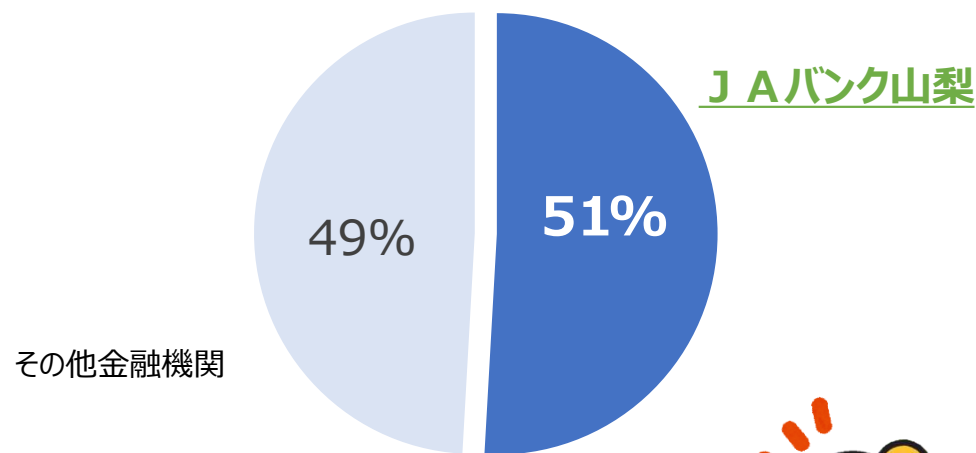
出所：J Aバンク山梨、日本政策金融公庫



【農業近代化資金の融資残高シェア】

（2023年3月末時点）

出所：農林水産省



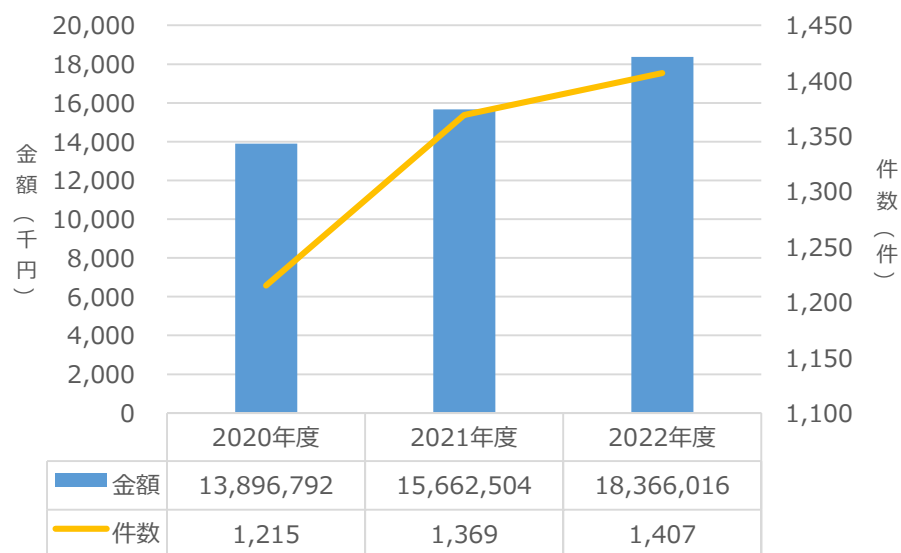
（注）J Aバンク山梨では、主にJ Aを窓口として、日本政策金融公庫資金の受託貸付金を取り扱っています。



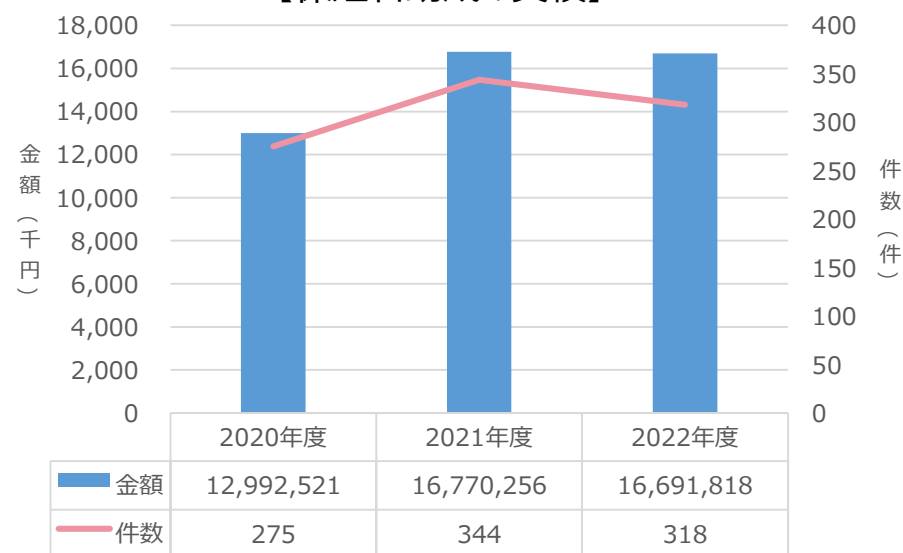
1 農山漁村等地域の活性化のための融資をはじめとする支援

- 農業資金を借り入れた農業者に対し、金利負担、保証料負担を軽減するため **利子補給**と**保証料助成**を行なっています。
- 対象となる資金は農業近代化資金、アグリマイティー資金、農機ハウスローン等です。

【利子補給の実績】



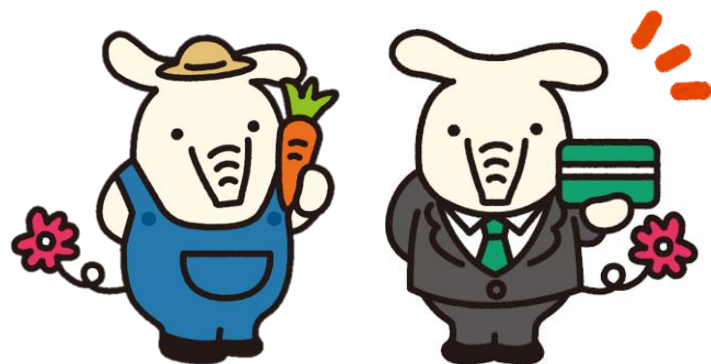
【保証料助成の実績】



1 農山漁村等地域の活性化のための融資をはじめとする支援

(2) 担い手のニーズに応えるための取組み

- J Aバンク山梨では、地域の農業者のニーズに応えるため、様々な取組みを行っています。
- J Aでは、本支店の農業融資担当者が営農・経済部門等と連携しながら、農業融資に関する資金提案や経営相談対応等を実施しています。これを支える体制として、豊富な農業金融知識をもった農業融資の実務リーダーである「**担い手金融リーダー**」を、2022年度末時点で8 J A・**33名**配置しています。
- J A系統独自の農業融資資格制度「**J Aバンク農業金融プランナー**」を導入しており、有資格者は2022年度末時点で県内に**88名**誕生しています。



J Aバンク農業金融プランナーとは

農業融資の実務に即した資格の取得を通じ、農業金融に関する知識・ノウハウの一層の充実を図り、多様化・専門化する**農業者の金融ニーズ**に応えていくことを目的としています

1 農山漁村等地域の活性化のための融資をはじめとする支援

- 組合員・利用者の相続相談ニーズに応えるため、JAの本店（所）に「**相続相談員**」を設置しています。「相続セミナー」や「終活イベント」を定期的を開催し、相続発生後に加えて、相続発生前の相談にも積極的に対応しています。
- 信連では、JAのサポート指導機能、農業法人等への融資相談機能を担う「**県域農業金融センター機能**」を構築しており、これらの機能の拡充、強化に努めています。
- また、山梨県のJAグループでは、信連・中央会・全農やまなしが一体となって「**県域担い手サポートセンター**」を構築しており、担い手に対し事業部門を横断した総合的なサポートに取り組んでいます。
- 当センターでは、山梨県や峡東農務事務所が開催する新規就農相談会へ参加し、就農相談者へJA事業等の紹介に努めています。



相続セミナー



新規就農相談会

「JAグループ山梨 担い手サポートセンター」は、**やまなし農業**を応援します

農業をはじめたい、農業研修を受けたい、移住を考えている

農業用地の活用や取得をしたい、農機を借りたくない、中古農機を購入したい

法人化をしたい、雇用・勤労制度を知りたい

農業資金を借りたい、借地は大変で協賛や付帯制度を利用したい

近郊を観光したい、JAを利用したい、事業継承や相談で悩んでいる

JAグループ山梨 担い手サポートセンター 〒400-9530 甲府市南田1-1-20 県JA会館1階 TEL 055-723-3030 E-Mail: rinace@ja.yamanashi.jp URL: <https://www.ja-yamanashi.jp/rinace-yamanashi.jp/>

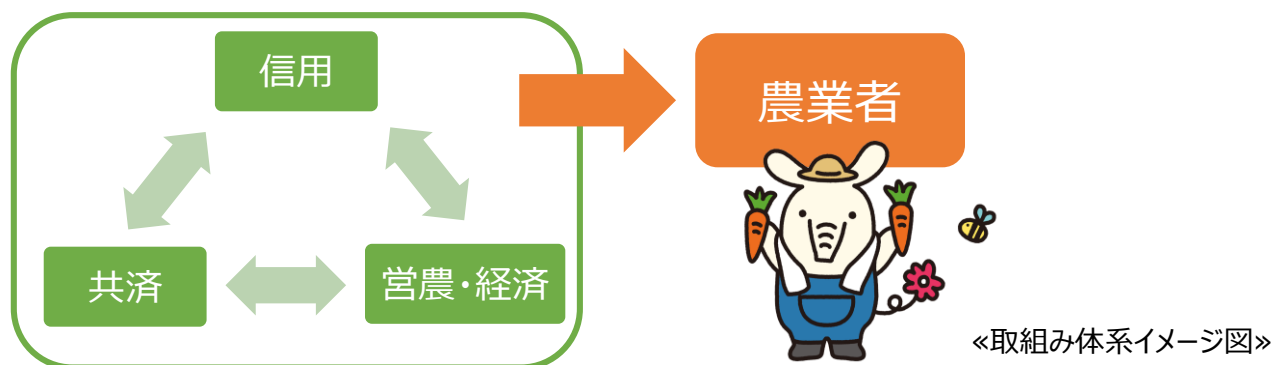
農務研修や、地域活性化応援プログラムは終了しました。ご利用いただいた皆さまのフォローアップにお応じし、更なる支援活動に生かしてまいります。

チラシ

1 農山漁村等地域の活性化のための融資をはじめとする支援

(3) J A内事業間連携の強化

- 農業者の多様なニーズに応えるため、JAならではの総合事業を活かし、営農・経済事業等との合同会議・研修会の開催や農業者への同行訪問等により、J A内事業間連携を強化しています。



(4) J Aバンク利用者満足度調査の実施と結果の活用

- J Aバンクでは、J Aの農業領域事業、地域領域事業に対する率直なご意見・ご感想をお伺いすることを目的として、お客様満足度の計測を行っています。
- 得られた結果を活用しながら、農業者の声により応えることが出来るよう、商品性改善やサービス満足度向上に取り組んでいます。

2 担い手の経営のライフステージに応じた支援

- J Aバンク山梨は、担い手をサポートするため、ライフステージに応じて、次の取組みを行っています。

(1) 次世代農業者の育成支援

**(2) 食農バリューチェーン構築による農業・地域の成長支援
(商談会・ビジネスマッチング)**

(3) J Aバンク山梨講演会・セミナー等の開催・参画

(1) 次世代農業者の育成支援

- J Aバンク山梨では、新規就農者の経営と生活をサポートするため、青年等就農資金（公庫資金）等を取り扱っています。
- 日本政策金融公庫と連携をとりながら、次世代農業者のサポートに取り組んでいます。

【新規就農者をサポートする資金の取扱い実績】

単位 件、百万円

種 類	2022年度 実行件数	2022年度 実行金額	2023年3月末 残高
青年等就農資金	29	131	105



2 担い手の経営のライフステージに応じた支援

(2) 食農バリューチェーン構築による農業・地域の成長支援(商談会・ビジネスマッチング)

- J Aバンク山梨は、農林水産業の事業力・収益力強化のため、商談会・ビジネスマッチングによる販路拡大支援等の農商工連携に取り組んでおり、「農業者と産業界の架け橋」として多様な機能を発揮しています。



【2022年度 商談会等開催状況】

商談会名	開催日	主催者	参加団体数	総来場者数	内容
農商工連携 マッチングフェア 2023	2023年 1月24日	山梨県 商工会議所	65団体	204名	・出展者に対するアンケートでは、86%が「おいに満足」／「満足」と回答し、名刺交換数は一社平均19.3枚となった

2 担い手の経営のライフステージに応じた支援

(3) J Aバンク山梨講演会・セミナー等の開催・参画

- J Aバンク山梨では、一流の経営者を招いた講演会や、法人化、農業経営に関するセミナー等を開催・共催し、担い手の経営力向上に貢献しています。

【2022年度 講演会・セミナー等の開催・参画】

講演会・セミナー名	開催日	主催者	対象参加者	参加者数	内容
専門学校県立農林大学校での研修	2022年8月31日	専門学校県立農林大学校	専門学校県立農林大学校 訓練生	50名程度	・訓練生に対し J Aグループの事業紹介を行う
Co+Shegoto (女性起業支援プロジェクト)	2022年10月4日 ～2022年12月6日	山梨県	起業を目指す 女性	20名程度	・起業に必要な知識の習得、仲間や先輩起業家とのネットワークの構築を図りつつ女性起業家の育成を支援する
農業経営改善セミナー	2023年12月2日	山梨県	農業者	67名	・農家事例発表やパネルディスカッションを行い、ワンランク上の経営を目指す

2 担い手の経営のライフステージに応じた支援

【2022年度 講演会・セミナー等の開催・参画】

講演会・セミナー名	開催日	主催者	対象参加者	参加者数	内容
企業の農業参入セミナー	2023年1月31日	山梨県	農業参入に興味がある企業	73名	・基調講演や現地視察を行い、企業の円滑な参入を促進する
新規就農者集合研修	2023年2月6日	山梨県	新規就農者	30名程度	・新規就農者に対しJ Aグループの事業紹介を行う



専門学校県立農林大学校での研修



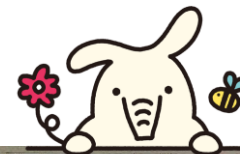
企業の農業参入セミナー



新規就農者集合研修

2 担い手の経営のライフステージに応じた支援

- 地域活性化支援の一環として、農業所得向上・周辺地域の牽引役となる若手農業者の養成を目的とした、**JAバンク山梨 ニューファーマー育成スクール**を開催しております。
- 農業経営に重点を置いた研修で、講義形式だけではなく、先進農家による講演やスクール修了生との交流会も実施しています。
- 本スクールは2016年度より毎年開催され、2022年度で7回目、修了生は70名以上となりました。



グループワーク



修了生との交流会



閉講式

3 経営の将来性を見極める融資手法をはじめ、担い手に適した資金供給手法の徹底

- J Aバンク山梨では、担い手の経営実態やニーズに適した資金の提供に努めています。

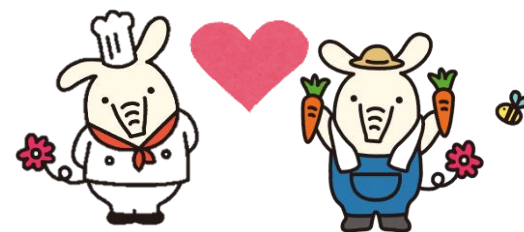
（１） 6次化産業の支援

（２） 負債整理資金による経営支援

3 経営の将来性を見極める融資手法をはじめ、担い手に適した資金供給手法の徹底

(1) 6次産業化の支援

- J Aバンク山梨では、担い手の所得向上を支援するために、生産と販売のマッチング機能強化や、需要拡大が見込める分野の事業展開支援、いわゆる6次産業化促進支援を行っています。



(2) 負債整理資金による経営支援

- J Aバンク山梨では、農業者の債務償還負担を軽減し、経営再建を支援するため、負債整理資金を取り扱っています。

【2022年度 負債整理資金の貸出実績】

資金名	2022年度 実行件数	2022年度 実行金額	2023年3月末残高
農業経営負担軽減支援資金	14	52	31
畜産特別資金	0	0	0
その他			
合 計	14	52	31

・農業経営負担軽減支援資金は、営農に必要な資金を借り受けたために生じた負債の借換えのための制度資金であり、J Aなどの融資機関において取り扱っています。
・畜産特別資金は、過去の負債の償還が困難な畜産経営者に対する長期・低利の借換資金であり、J Aなどの融資機関において取り扱っています。

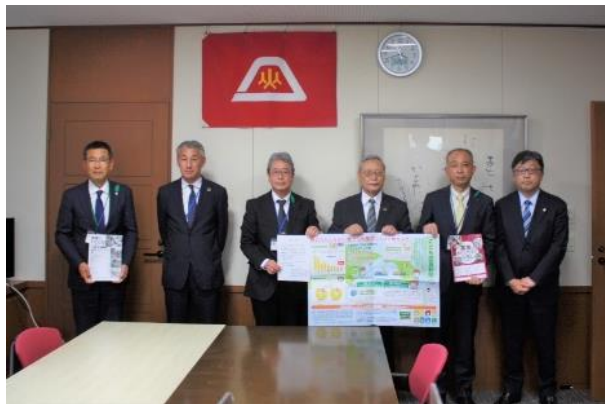
4 農山村等地域育成への貢献

(1) 食・農への理解促進

- J Aバンク山梨では、地域社会へ貢献するため、次の取組みを行っています。
- 地域の小学生の農業に対する理解を促進するため、J Aバンク食農教育応援事業を展開し、農業に関する教材「**農業とわたしたちの暮らし**」の配布や農業体験学習の受入れ等に取り組んでいます。
- 教材「農業とわたしたちの暮らし」は、各 J Aを通じて、2022年度には県下の小学校**172校**へ**約8,500冊**を、さらに特別支援学校・特別支援学級12校へ約200冊を配布され、学校の授業等において活用されています。



農業とわたしたちの暮らし



贈呈式①



贈呈式②

4 農山村等地域育成への貢献

- 食農教育活動では、実際に子供たちのもとを訪れ、山梨県農業の特徴や県特産物を紹介し、農業の魅力を伝えるとともに地産地消を促す取組みを行なっています。

【ＪＡバンク山梨食農教育応援事業による活動内容】

活動名	活動内容
食農教育出張授業	県内幼稚園・保育園へ出向き、食の大切さや食を支える農業について知識を深めてもらうため、山梨県農業の魅力や県産品、ＪＡについて紹介しました。
収穫体験	県内幼稚園時に対し、伝統野菜「八幡芋」の収穫体験を実施しました。芋に付いた土を払ったり、農家の方と一緒にクワで掘り起こしたりと、実際に農業に触れる体験をしました。



食農教育出張授業①



食農教育出張授業②



収穫体験